

## ⑤ オの検討例

意思の  
表明

やる気はあるのだけど……。授業中に先生や友達に注意を  
されることがある。

背景  
実態把握

### Aさんの場合（中2：通常の学級）

- ・授業では、友達や教師の話を聞いていないような一方的な発言をする。普段の友達との会話も一方的で会話が成り立たない。

### Bさんの場合

- （中2：通常の学級、通級指導教室を利用）
- ・他者の感情が分かりにくく、状況にあった応答が難しいことがある。自分が責められると怒って暴れたり飛び出したりする。

### Cさんの場合（中2：通常の学級）

- ・言葉が出にくく、声も小さい。友達がいないことを気にして、行事があるときは休むことが多い。授業では、ノートに空想の絵を描いて過ごしていることが多い。

学校の  
基礎的  
環境整備

- ・各学年の学年主任が特別支援教育コーディネーターを担当している。基(2)
- ・必要な生徒に個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成している。基(3)
- ・職員室の近くに空き教室がある。基(5)
- ・スクールカウンセラーがいる。基(6)
- ・知的障がい特別支援学級がある。基(7)
- ・通級指導教室がある。基(7)

メンバー 本人・保護者・学級担任・  
学年主任で相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・  
生徒指導主事・学年主任・通級指導  
教室担当者で相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・特  
別支援学級担任・学年主任・スクール  
カウンセラーで相談・協議

検討  
決定  
提供

### 合理的配慮の内容

- ・「〇〇さんの意見について〇〇だと思います。」「△△だと思います。なぜなら△△だからです。」など、授業中の発表のルールを学年で統一する。うまくできないときは、個別で練習する機会を設ける。①-2-1
- ・グループでの活動の際には、聞き手と話し手の役割交代をしながら話をするよう、学級担任や教科担任が指導する。①-2-2
- ・支援内容について学年部で共通理解を図り支援を行う。②-1

### 合理的配慮の内容

- ・確実に応答できる機会を増やすため、具体的な言葉で質問する。①-1-1
- ・興奮してしまった時は、空き教室で落ち着くまで過ごせるようにする。③-2
- ・通級指導教室で「傷つけずに伝える方法」について4コマ漫画などの視覚的に示したストーリーや表情カードを利用して指導する。①-2-1
- ・通級指導教室で気持ちの物差しなどを使って自分の感情について客観的に理解できるよう指導する。

### 合理的配慮の内容

- ・全体への指示の後、個別に説明したり、机間指導の際にすべきことが分かっているか確認したりする。①-2-1
- ・行事やグループ活動で、本人のキーパーソンとなる生徒と一緒に行動できるように支援する。①-1-1
- ・スクールカウンセラーと週1回、会話のやり取りの練習をする（本人の興味のある話題を図や文字で示しながら話を広げていく）。①-2-1

注意をされることが減ったよ。授業が楽しくなったよ。

評価  
見直し

- ・全体で発表する際はルールを理解し、実践できるようになった。しかし、グループで話し合いをする際は一方的に話すことがあるので、話し合いのルールを書いたカードを活用するといいいのではないかな。

- ・具体的な言葉で質問をした時は、状況にあった応答ができた。
- ・通級指導教室では「傷つけずに伝える方法」について考えることができた。今後、生活場面で実行できるような手だてを考えていく。

- ・授業中に絵を描いて過ごすことはなくなってきた。今後、すべきことを黒板の決められた場所に書き、聞き逃した時はそれを見るよう指導してはどうか。
- ・総合的な学習の時間では、グループでの発表資料の作成で挿絵を描く担当をし、積極的に取り組んだ。